

近代乗り越える思想なのか

近代仏教とは何か

自己批判は不発

——大谷先生は仏教者側が積極的に「国体」観念を取り込んだ側面があると指摘されました。末木 それは田中智学の再評価にも関わってきますね。田中智学は非常に良心的な仏教者でしたが、その一方で天皇信仰にも傾いていました。そこから國体論において、そこから國体論に入っていく。結局、彼は最後まで國体と法華経の二元性を統合できなくて苦しんだ。それが智学の影響が限定されてしまつた理由ではないかと思ひます。これが里見岸雄になると、いわば仏教をかっこに入れるような形で、國体を表に出していく。私はそのような対比で智学を捉えているんであります。だから表面だけで「戦国体論を教義の中に取り込みながら當時の最先端の仏教の在り方を追求してきたのが田中智学や暁鳥敏だったと思ひます。どう評価するかは別の話ですが。

国体と仏教の関係で難しい問題は、「国体明徴運動」前後から戦時教學の動きが強まつてくることです。どの宗派でも天皇の位置付けや國体と仮題で済ませている。

大谷 仏教と戦争の関係には、若手研究者の時に「宗祖をどう受け止めるか」というような教題で済ませてある

——大谷先生は仏教者側が積極的に「国体」観念を取り込んだ側面があると指摘されました。末木 それは田中智学の再評価にも関わってきますね。田中智学は非常に良心的な仏教者でしたが、その一方で天皇信仰にも傾いていました。そこから國体論において、そこから國体論に入していく。結局、彼は最後まで國体と法華経の二元性を統合できなくて苦しんだ。それが智学の影響が限定されてしまつた理由ではないかと思ひます。これが里見岸雄になると、いわば仏教をかっこに入れるような形で、國体を表に出していく。私はそのような対比で智学を捉えているんであります。だから表面だけで「戦



大谷 栄一氏

末木 文美士氏

東日本大震災「以後」を視野に

——大谷 戦後、戦争責任の問題について、各宗派が戦争中の戦争協力を自己批判してきました。しかし、本当の意味で思想的、あるいは教理的に戦時教學というものは成り立たないのか、それが間違っているとしたら、どういう教理的な根拠によつて批判するのか……。そういう本当の教理・思想に立ち入つての自己批判は必ずしもされていないんですね。

——末木 なぜそれほど「近代」を大きく捉えなければならぬのかと言つて展開されたが、戦時教學というのもある。例えば親鸞教学が近代になつて展開されたが、それを対象化したり相対化したりするのは難しかった。それが今課題となるのは、日本仏教や仏教を語る時に、近代主義的な物の見方というのがいまだ

それが今課題となるのは、日本仏教や仏教を語る時に、近代主義的な物の見方というのがいまだに強いという状況があるからです。

——大谷 近代の仏教者が持っていた「近代を受け入れる」側面、その両方を見ていくことが必要になります。近代批判の側面をいつくことができるかが問われていますね。

——末木 これは、東日本大震災以後の状況で、なぜ仏教が見直されつつあるかという問題につながつていて、こんなに大きな問題になつていいだろ

う。そこで論じています。ただ末木先生がおっしゃるような仏教教理の問題では踏み込んでいますね。近代的な視点から見て、近代的な見方を相対化しないで、非常に難しいが、忘れてよい問題ではない。

——大谷 日蓮仏教の研究に即していようと、日蓮の思想をどう考えるかといふ問題で、近代的な視点から見て、近代的な見方を相対化しなくてはいけない状況に追い込まれる。その中で出てきたのが戦時教學であり、様々な宗派の天皇本尊論ですね。

——大谷 まさにこのことですね。中世仏教の研究者の立場から言わせても、近代仏教の様々な側面が明らかになってきたことは非常に重要なことです。それで非常に難しいが、忘れてよい問題ではない。

——大谷 たわけですが、今「その先」をいかに展望するかが問われています。

——大谷 日蓮仏教の研究が即していようと、日蓮の思想をどう考えるかといふ問題で、近代的な視点から見て、近代的な見方を相対化しないで、非常に難しいが、忘れてよい問題ではない。

——大谷 たわけですが、今「その先」をいかに展望するかが問われています。

——大谷 日蓮仏教の研究

が即していようと、日蓮の

思想をどう考えるかとい

う時に、近代的な視点か

ら見た日蓮像というもの

があります。

——大谷 日蓮仏教の研究

が即していようと、日蓮の